

貴重な体験

A.M

私は、森林について調べてきました。その中でも特に、倒木上に更新する特性をもっている、倒木更新について調べました。

倒木更新とは

寿命や天災、伐採などによって倒れた古木を礎にして、新たな世代の木が育つことです。主に、エゾマツやトドマツ、スギなどの針葉樹木に多くみられます。ブナなどでも、みられることがあります。

倒木更新のよいところ

ふつうに地面で育つ木は、赤ちゃんのところに、太陽から遠いため長生きできず、枯れてしまうことがあります。でも、親の木の上で育つ倒木更新は、地面より上で、太陽に近いし、親から養分をもらうことができます。そのため枯れず、速く成長することができます。

倒木上で育った赤ちゃん、大人になると？

倒木上で育った赤ちゃんが、大人になると、親の木と合体し、1つの大きな木になります。でも、2つの木が合体したので、形がとても悪いです。形が悪くても、成長できて立派な木になった証拠なので、いいと私は思います。

私は、倒木更新のほかに「落葉樹」「なぜ紅葉するのか」「紅葉と黄葉」「ブナの木」「屋久杉」「エゾマツ」「ドドマツ」「エゾマツとトドマツの違い」「スギ花粉について」「木から紙へどのように作られるのか」などを調べました。

落葉樹とは

1年のうち葉を落としてしまう期間のある木を落葉樹と言います。日本ではふつう秋から冬にかけて落葉します。葉は薄くて比較的やわらかく、表面は明るい緑色でつやは少ないです。

紅葉と黄葉

秋になると落葉樹の葉は、色が変わり、やがて落ち葉になります。イチョウのように鮮やかな黄色になるものやハゼの木のように燃えるような赤になるものがあります。

「紅葉」と言ったり「黄葉」と言ったりします。でも、この2つの読み方は、「こうよう」と、同じです。「なぜ、2つの読み方があり、漢字が違うのか?」「なぜ、そのように色の変化が起こるのか?」を調べました。その結果、「黄葉」とは、もともと、葉の中に、黄色の色素（カロチノイドと呼ばれる色素）と緑色の色素（クロロフィルと呼ばれる色素）があり、緑色の色素は、葉の葉緑体の中にあり、光合成の主役です。日射の強い夏には光合成がさかに行われ、植物が成長するための栄養分がまかなわれます。でも、秋になり光が弱くなってくると、光合成でつくられる栄養分から得られるエネルギーよりも葉を維持するために消費されるエネルギーのほうが大きくなるため、採算があわず、落葉の準備を始めます。同時に緑色の色素も不要になるため分解されます。緑色の色素は分解されると色もなくなります。すると、もともと含まれている黄色の色素が目立つため「黄葉」が起こるのです。黄葉する木にはブナやミズナラなどがあります。ちなみに、黄色の色素が少ない葉は、白っぽくなります。

次に、「紅葉」です。緑色の色素が分解しつつ、葉の中にもともと含まれていない赤い色素（アントシアと呼ばれる色素）をつくる植物などがあります。イロハモミジなどがその例で、緑色の色素が分解される一方で、赤色の色素がつくられるため、「紅葉」するのです。ちなみに黄色の色素と同じ程度に、赤色の色素がつけられると橙色の葉になります。

「秋になると赤い色素がつけられる。」これは、昔から謎のことで、今でも本当のことは、わかっていないようです。

私は、これらのことを調べて来ましたが、ケガをしてしまい、山登りすることが、出来ませんでした。私が、どうしても見たかったものは、倒木更新を起こしている木です。それと山へ登って、植物や動物の足あとなどが見たかったです。

倒木更新は、自分の目で見ることではできなかったのですが、友達が、実際に見て写真を撮ったものを見せてくれました。その写真の倒木更新はとても、ゴチャゴチャ根を張っていて、「これで本当に、ちゃんと育つのかな?」と疑問に思いました。

もっともっと倒木更新について調べたいし、いつか写真ではなく、実際に自分の目で、見てみたいです。

林間学校当日は、山登りが出来なかったので、JTBさんのお仕事体験をさせてもらいました。行ってすぐに、仕事が始まり、1日目は、バスからみんなのお見送りをしました。そして、誰よりも早く、ホテルへ行き、チェックインをしてから、みんながホテルへ来て、予定がわかるように、ホワイトボードに時間、何をするのか、全部書きました。

みんなが、ホテルへ到着すると、チェックインのしかたを教えたり、次に何をするのかを知らせたりしました。

2日目は、みんな自然体験学習1日コースだったので、私は暇か……。と思っていたら、そんなことはありませんでした。みんなとは離れていたけれど、JTBさんの栗原さんと一緒に、「天鏡閣」へ行きました。部屋をととてもゆっくり回りました。とてもキレイな建物でした。

でも、震災の影響により、壁などが、あちこち壊れてしまっていました。福島県の現状を見ることができて、よかったです。

そして次に、みんなが行かない牧場へ連れて行ってもらいました。みんなが来ないのに、なぜ私だけ連れてきてくれたのかを聞くと、「お客さんが、行かないところでも、近くを回り、次に来たお客さんに、教えてあげられるように、あちこち回ったりするんだよ。」と教えていただきました。

ホテルに帰ってきて、やっとゆっくり出来るのかと思ったら……。先生方へお電話!!! 今、どこに居るのかを聞き、それに合わせて、バスを出さなければならないからです。私は、「具合の悪い人は、居ませんか?」「今、どの辺を歩いているのですか?」「あとどのぐらいで、ゴールですか?」と聞き、これを7人の先生方に、15分おきぐらいに、お電話しました。

先生に電話するなんて、初めてで、とても緊張しました。でも少し、楽しかったです。そしてこの日、JTBさんの富吉さんの名札を借りて、1日中首にぶらさげていました。みんなの上で立ってた気分で、とてもうれしかったです。

3日目、みんなはウォークラリーでした。今日も、先生方へお電話です。先生たちはみんなが、歩くコースのポイントに立っていました。

どこのグループが、通過したか聞くのが、私の仕事でした。この日は、とても寒かったので、みんながポイントに着くまで、先生たちへ電話し、「寒いですか?」「頑張って下さい。」と声を掛けつづけました。

みんながポイントに来はじめると、電話はかけないといけないし、時間やグループ名をメモしなければいけなく、とても忙しかったです。

まったくポイントに着かないグループが、何グループか居て、バスを出して探しに行ってもらいました。





あと、バスガイドさんと新聞紙で、ゴールテープと一緒に、作りました。

そして、自分たちで歩いて帰ってきたグループも、途中でリタイヤしてしまい、バスで帰ってきたグループも、うれしそうにゴールテープを、切ってくれました。

みんなが、無事に帰ってきてくれて、

本当に良かったです。

みんなと一緒に、ウォークラリーをやりたかったけれど、裏の仕事も楽しかったので良かったです。

私が、この林間学校で学んだことは、2つあります。

まず、「協力」です。ウォークラリーは、班で協力して、ゴールへ向かわなければなりませんでした。

それと、キャンドルサービスです。これも、クラスで協力して、出し物を出しました。

みんなが協力したから、楽しい林間学校になったのではないかと私は、思います。

それと、「感謝」です。キャンドルサービスが、成功したのは、エールマスターと、先生のおかげです。

そして、福島県の人々は、本当に大変なのに、私たちを受け入れてくれました。

みんなが、ホテルへ到着する前まで、ホテルの方々は、「早く、来ないかな?」と言っていました。

「協力」と「感謝」があったからこそ、良い林間学校になったのではないかと、思います。

私は、JTB さんのお仕事体験をさせてもらい、とてもためになりました。裏の仕事は、大変だったけれど、裏の仕事がないと、みんなの林間学校は、成功しなかったと思います。

私は最後に、JTB さんの富吉さんと栗原さんから、感謝状をもらいました。

「あなたは、この3日間、JTB のスタッフの一員として、一生懸命に働き、笑顔に努め、皆さんへたくさんの元気を届けました。

その行動を讃え、ここに感謝の意を表します。

繁忙期、手が足りなくなった際には、連絡しますので、助けに来てください！」

と書いてありました。

それと、私の名前が入っている JTB の名札も、もらいました。

私は、調べてきたことが見られなくて、とても残念だったけれど、みんながしていない貴重な体験ができて、本当に、よかったです。

これからも、福島県のことや森林のことを、調べていきたいです。